

橋下大阪市長の発言をめぐる社説・論説・コラム一覧

橋下氏発言 女性の尊厳踏みにじる不見識

(読売新聞 2013.05.16 社説)

公人としての見識と品位が問われる発言だ。

日本維新の会の橋下共同代表が、いわゆる従軍慰安婦について、兵士によるレイプを抑え、「軍の規律を維持するには当時は必要だった」と記者団に語った。

さらに、橋下氏が在日米軍幹部に、風俗業の「活用」を働きかけていたことも明らかになった。

橋下氏は15日、慰安婦について「いま必要とは一切言っていない」と釈明した。戦時中、旧日本軍以外にも類似した存在があったという指摘は、その通りだろう。

とは言え、軍に慰安婦が必要だったと声高に主張することが、女性の尊厳を軽んじるものと受け止められても仕方あるまい。

橋下氏の発言に対し、稲田行政改革相が「慰安婦制度は女性の人権に対する侵害だと思っている」と述べたように、強い反発の声が上がったのも当然である。

今回の発言は、歴史認識をめぐる安倍内閣の姿勢に関連して、記者団の質問に答えたものだ。

慰安婦問題に関する1993年の河野官房長官談話には、資料的な根拠もないまま、日本の官憲が組織的、強制的に女性を慰安婦にしたかのような記述がある。そうした誤解を招くような記述は、事実を踏まえた見直しが必要だ。

橋下氏は河野談話の見直しが持論である。だが、戦時中の慰安婦の存在を「必要だった」と認めることは、逆に国際的にも誤解を広げることになるのではないか。

橋下氏は、日本政府が1965年の日韓基本条約で慰安婦問題は法的に解決済みだとしていることを批判し、元慰安婦に「配慮すべきだ」とも語っている。だが、何ら具体策もないのに、こうした主張をするのは無責任である。

一方、「風俗業活用」発言は橋下氏が最近沖縄を訪問した際、在日米軍幹部に進言したという。

兵士の性をどう制御するかは、いつの時代も軍の課題だとして、日本で合法的に行われている風俗業を活用してはどうかと語った。幹部は、軍では禁じられていると答え、この話を打ち切った。

米軍の規律に対する無理解であり、侮辱とも受け止められたのではないか。米国社会では、女性

の尊厳が重んじられている。日本の歴史問題の中でも、とりわけ慰安婦問題に対する視線が厳しい。

沖縄などからも、女性を道具として扱う暴言と批判の声が上がったのももっともだ。

なぜ、橋下氏がこうした提案をし、それを表明する必要があったのか。首を傾（かし）げざるを得ない。

<http://www.yomiuri.co.jp/editorial/news/20130515-OYT1T01538.htm>

橋下市長—これが政治家の発言か

(朝日新聞 2013.05.15 社説)

橋下徹大阪市長が、戦時中の旧日本軍の慰安婦について「必要なのは誰だってわかる」と語った。

橋下氏はさらに、沖縄県の米軍普天間飛行場の司令官と会談した際に、合法的な範囲内で風俗業を活用してほしいと進言したとみずから明かした。

発言に批判が広がると、今度は「貧困から風俗業で働かざるを得ないという女性はほぼ皆無。皆自由意思だ。だから積極活用すればいい」などとネット上で繰り返した。

こんな強弁が、通用するはずはない。

橋下氏の理屈はこうだ。

命がけで戦う兵士を休息させ、軍の規律を維持するには慰安婦は必要で、世界各国の軍にも慰安婦制度があった。それなのに日本だけが非難され、不当に侮辱されている。それは国をあげて強制的に女性を拉致したと誤解されているからだ——。

だが、いま日本が慰安婦問題で批判されているのは、そこが原因なのではない。

慰安所の設置や管理に軍の関与を認め、「おわびと反省」を表明した河野談話を何とか見直したいという国会議員の言動がいつまでも続くからだ。

戦場での「性」には、きれいごとで割り切れない部分があるのも確かだ。だからこそ当時の状況は詳しくわからないし、文書の証拠も残されていない。

それでも、多くの女性が自由を奪われ、尊厳を踏みにじられたことは、元慰安婦たちの数々の証言から否定しようがない。

橋下氏は「意に反して慰安婦になった方には配慮しなければいけない」とも語っている。

ただ、橋下氏の一連の発言は、元慰安婦たちの傷口に塩を塗るばかりでなく、いまを生きる女性たち、さらには米兵をも侮辱するものだ。

「風俗業を活用したら」と言われた米国から、「我々のポリシーや価値観からかけ離れている」（米国防総省の報道担当者）といった強い反応が出てくるのは当たり前だ。

橋下氏とともに日本維新の会の共同代表を務める石原慎太郎氏は「軍と売春はつきもので、歴史の原理みたいなもの」と橋下氏をかばった。

維新の会幹事長の松井一郎大阪府知事も「そういう問題を建前でなく、本音で解決するために言ったと理解している」と話した。

この党には、橋下氏をいさめる政治家はいないのか。百歩譲って本音で解決するためというのなら、何をどう解決するのか示してほしい。

<http://digital.asahi.com/articles/TKY201305140537.html>

橋下氏の発言 国際社会に通用しない

（毎日新聞 2013.05.15 社説）

あぜんとする言動である。日本維新の会共同代表を務める橋下徹大阪市長が旧日本軍のいわゆる従軍慰安婦制度について「必要だった」と発言した。

橋下氏は沖縄の在日米軍についても司令官に「（米軍は）風俗業を活用してほしい」と提案した。野党実力者の不適切発言は対外的に日本政治への不信を招き、国そのもののイメージすら損ないかねない。

「精神的に高ぶっている集団に休息させてあげようと思ったら慰安婦制度が必要なことは誰でも分かる」「日本軍だけでなく、いろんな軍で慰安婦制度を活用していた」。橋下氏はこう、主張している。

まず、慰安婦制度を「必要」とまで言い切る感覚には明らかに問題がある。橋下氏発言に関連し稲田朋美行政改革担当相は「慰安婦制度はたいへんな女性の人権に対する侵害だ」と指摘した。橋下氏の認識は女性の人権への配慮を欠いている。

また、橋下氏はかねて慰安婦問題で旧日本軍の強制性を認めた1993年の河野洋平官房長官の談話を批判しており、今回もその延長線上にあるようだ。慰安婦についてさまざまな議論があることは事実だ。だが「多数の女性の名誉と尊厳を深く傷つけた」と河野談話が記すように、他軍を引き合いに正当化されるものではあるまい。

紛争下での性犯罪を重視する流れが強まり、防止策が議論されているのが現在の国際的な潮流でもある。橋下氏のような認識は国際的にも受け入れられないだろう。

「風俗」発言も問題が大きい。米国防総省担当者が「ばかげている」と取り合わなかったと報じられているのも当然だ。

95年、米兵による女児暴行事件をめぐり米太平洋軍司令官は「(犯行に使った)車を借りるカネで売春婦を買えた」と語り辞任に追い込まれ、沖縄県民の怒りの火に油を注いだ。こうした経緯をどこまで踏まえた発言だったのか。こんな言動が続くようでは政治家としての資質すら問われよう。

安倍晋三首相の歴史認識をめぐる疑念が米国で強まっている。「河野談話」見直しに菅義偉官房長官が慎重姿勢を示すのも不用意な対応が日本の外交力を損ないかねないとの警戒からだろう。橋下氏の「慰安婦」発言を維新の会の石原慎太郎共同代表も擁護した。両氏の発言はこうした配慮を台無しにしかねない。

歴史認識をめぐるのは自民党の高市早苗政調会長の発言も波紋を広げている。発言が結果的に外交力を低下させ、国益を損なう悪循環を生みかねないことを与野党の政治家は強く心得るべきだ。

<http://mainichi.jp/opinion/news/m20130515k0000m070135000c.html>

「口は関なり、舌は兵なり…

(毎日新聞 2013.05.15 余録)

「口は関なり、舌は兵なり、言を出して当たれば反(かえ)って自ら傷(そこ)なう」。君主らへの戒めを記した「説苑(ぜいえん)」という書物にこうある。口は関所で舌はそこに詰める兵である。いったん関を出た言葉が適切でなければ自らを損なう—という次第だ

▲事と次第によってその口を出たとたん全世界の人々に伝わる今日の政治家の言葉である。その発言が21世紀の文明の基準を逸脱し、世界の心ある人々の嫌悪を招けば、自らの国の名誉を損ない、外交にも悪影響を及ぼす

▲では第2次世界大戦の日本軍の従軍慰安婦制度についてのこの発言はどうか。「精神的に高ぶっている集団に休息させてあげようと思ったら慰安婦制度が必要なのは誰でも分かる」。軍の規律を維持するために当時それが必要だったとの橋下徹(はしもと・とおる)大阪市長の発言である

▲驚くのは、自ら明かした沖縄の米海兵隊の司令官とのやりとりである。橋下氏が「兵士の性的エネルギー発散にもっと風俗業を活用してほしい」と提案したところ、相手は困惑しつつ「(買春は)禁じている」と語ったという。聞いただけでも顔から火が出る問答だ

▲ことは現実に影響力を振るう政治リーダーの発言である。女性を道具扱いするような物言いが今日の世界で激しい嫌悪を巻き起こさぬはずがない。いや女性ばかりか、日米の男性も、沖縄の住民も、関係するすべての人の尊厳をおとしめたと受け取られて当然だろう

▲舌の「兵」の力で国政の一角にまで大きな政治勢力を築きあげた橋下氏である。だがそうなった今や、同じ力が自身だけではなく国民共通の利益まで損なうことを忘れてもらっては困る。

<http://mainichi.jp/opinion/news/m20130515k0000m070133000c.html>

橋下市長発言 女性の尊厳損ね許されぬ

(産経新聞 2013.05.15 主張)

日本維新の会の橋下徹共同代表(大阪市長)が「慰安婦制度は当時は必要だった」などと語った。米軍幹部に「海兵隊員に風俗業を活用してほしい」と述べたことも自ら明らかにした。

今の時代に政治家がこうしたことを公言するのは女性の尊厳を損なうものと言わざるを得ない。許されない発言である。

慰安婦問題をめぐっては、宮沢喜一内閣当時に根拠もないまま強制連行を認める河野洋平官房長官談話が発表され、公権力による強制があったとの偽りが国内外で独り歩きする原因となった。

安倍晋三首相は有識者ヒアリングを通じて談話を再検討する考えを示してきた。橋下氏が「必要な制度」などと唱えるのは事実に基づく再検討とは無関係だ。国際社会にも誤解を与えかねない。

橋下氏は「慰安婦制度は世界各国の軍が活用したのに、なぜ日本だけ取り上げられるのか」「軍の規律を維持するためには必要だった」などと、当時の慰安婦の必要性を肯定した。

これに対し、稲田朋美行政改革担当相は「慰安婦制度は女性の人権に対する大変な侵害だ」と批判し、下村博文文部科学相も「あえて発言する意味があるのか」と指摘した。稲田、下村両氏は自民党内の保守派として河野談話の問題点を厳しく指摘したこともあるが、橋下氏の考えとは相いれないことを示すものといえる。

安倍首相も「筆舌に尽くしがたいつらい思いをされた方々のことを思い、非常に心が痛む」との認識を表明している。

河野談話の発表にあたっては、二百数十点に及ぶ公式文書には旧日本軍や官憲が慰安婦を強制連行したことを裏付ける資料は一点もなかった。だが、発表直前に韓国のソウルで行った韓国人元慰安婦からの聞き取り調査だけで、強制連行があったと決めつけた。

裏付けなく発表された談話が、韓国などの反日宣伝を許す要因となっている状況を安倍政権は見

直そうとしている。いわれなき批判を払拭すべきだという点は妥当としても、橋下氏の発言が見直しの努力を否定しかねない。

橋下氏が米軍幹部に述べた「風俗業活用」発言など、もってのほかだ。人権を含む普遍的価値を拡大する「価値観外交」を進める日本で、およそ有力政治家が口にする言葉ではなかろう。

<http://sankei.jp.msn.com/politics/news/130515/stt13051503370002-n1.htm>

橋下氏への内外の厳しい視線

(日経新聞 2013.05.16 社説)

判断力は政治家の重要な資質の一つである。何をいつどこで語るかが日々問われる存在だ。日本維新の会の共同代表である橋下徹大阪市長はその自覚に欠けていないか。自身の言葉が国内どころか海外でも波紋を広げているのはなぜかをよく考えてもらいたい。

発端は旧日本軍の従軍慰安婦について「必要なのは誰だってわかる」という発言だ。維新の石原慎太郎共同代表も「軍と売春はつきもの」と呼応した。

性倫理は時代や国で異なるが、「精神的に高ぶっている集団を休息させる」ために女性を慰みものにしてよいはずがない。1981年発効の女子差別撤廃条約は女性の人身売買と売春の防止に1章を割く。日本も加盟国だ。

橋下氏の言うように他国にも同じような過去があったとしても、それで日本の慰安婦問題が許容されるわけではない。

元慰安婦への謝罪と賠償を求める韓国は猛反発している。日韓が相次ぎ政権交代したのにいまだ開けない首脳会談をさらに遠のかせた。東アジアの安定に逆効果でしかない。

周辺国以外の目も厳しい。橋下氏は沖縄の米軍司令官に米兵犯罪を減らす一策として「風俗業の活用」を進言したそうだ。

米国防総省報道官は米軍が買春を推奨しないのは「言うまでもない」と不快感を示した。人権に敏感な米欧メディアは「有力首相候補が性奴隷は必要と発言」(米AP通信)と批判的に報じた。

騒ぎがさらに大きくなれば安倍晋三首相の「侵略の定義は定まっていない」などの発言も一体として扱われかねない。米国内の知日派は「日本異質論を誘発する」と懸念する。このままでは日本の国益を損なうおそれがある。

上手の手から水が漏れるということわざがある。地盤や資金力のなさを言葉の力で補って野党第2党の党首になった橋下氏に「自分ならば誰でも説得できる」との過信はなかったか。謙虚さも政

治家の大事な資質である。

<http://www.nikkei.com/article/DGXDZ055095570W3A510C1EA1000/>

それを言っちゃあ、おしまいよ

(日経新聞 2013.05.15 春秋)

それを言っちゃあ、おしまいよ。映画「男はつらいよ」シリーズでフーテンの寅さんが、おいちやんやタコ社長に意見されて吐くご存じの捨てゼリフだ。けだし名言である。世の中にはいろいろと理屈をまぶしてみたって、口に出したら収拾のつかなくなる言説がある。

▼日本維新の会の橋下徹共同代表の、従軍慰安婦問題をめぐる発言もそうだろう。「歴史を調べると慰安婦制度がいろんな軍で活用されていた」「銃弾が飛び交うなか、猛者集団を休息させようとしたら必要なのは誰でも分かる」。なるほど前段のような事実があったにせよ、だから「必要だった」とは政治家の言ではない。

▼ご本人はタブーを打ち破ったつもりかもしれない。しょせん野党党首でもある。しかし旧日本軍の従軍慰安婦をここまで容認する発言を黙過するほど世界は甘くなかろう。米国などの視線も厳しいこの問題はとにかく慎重に扱うにかぎるのだ。だいたい、こんなことを言っただけのける神経には女性への意識が抜け落ちている。

▼橋下さんは沖縄の米軍基地を視察した際、司令官に「もっと風俗業を活用してほしい」と持ちかけたそう。司令官は凍りついたように苦笑していたというが、その場面を想像するだけでこちらが恥ずかしくなる。この人のほとぼしる言葉はときに的を射ている。けれどこんな具合では橋下さん、ブームもおしまいよ。

<http://www.nikkei.com/article/DGXDZ055053920V10C13A5MM8000/>

橋下市長発言 女性を傷つけた罪深さ

(北海道新聞 2013.05.15 社説)

政治家の資質はもちろん、人間性をも疑わせる。

日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が、旧日本軍の従軍慰安婦制度について「当時は軍の規律を維持するために必要だった」などと容認する発言を繰り返した。

沖縄の米軍司令官には海兵隊員の規律維持のため「風俗業を活用してほしい」と進言したと自ら語った。

元慰安婦をはじめ、すべての女性の尊厳を傷つける許し難い言動だ。基地負担を押しつけられている沖縄県民の気持ちも踏みにじるものだ。

このような人物が衆院第3党を率いていることに危惧を覚える。日本の政治家の歴史認識と人権感覚に内外から厳しい目が向けられている。

橋下氏は撤回し、謝罪すべきだ。

発言は、慰安婦問題を矮小（わいしょう）化するため保守層などが繰り返した反論をなぞるもので目新しさはない。

「高ぶる兵士を休息させるため慰安婦制度は必要で、世界各国が持っていた」と述べたが、必要なら何ごとにも正当化されるわけではない。「部活の指導に必要」と言い張っても体罰が許されないのと同じだ。

旧軍がアジア侵略戦争のため必要だと考えたとしても、目的も手段も間違っていたのだ。軍の立場で考えず、意に反し兵士の相手を連日させられた女性の思いを想像すべきだ。

戦争は、あらゆる人権を抑圧する非人間的なものだ。橋下氏には、戦争に反対する思いの欠如を感じる。慰安婦問題で一人一人に問われるのは、今現在の人権感覚だ。

「暴行、脅迫して拉致した事実は裏付けられていない」との発言も、1993年の河野洋平官房長官談話に絡め、強制性を否定したい政治家らが持ち出す論法だ。

河野談話は、政府が行った元慰安婦らからの聞き取り調査を基に「文書はないが強制性はあった」と判断したものだ。文書がない点を強調しても結論は変わらない。安倍晋三内閣も河野談話継承を表明した。

元慰安婦は旧植民地の朝鮮半島から多数動員されたほか、中国やフィリピンの戦地でも連行された。インドネシアの収容所にいたオランダ人女性も被害にあった。

橋下氏は「優しく配慮していく」というが、自ら進んで従軍したかのように語ることが元慰安婦らを二重三重に辱めると知るべきだ。

沖縄の米軍に事実上「買春」を勧める感覚もゆがんでいる。男性の視点で、軍人の性的欲求解消策を重ねて強調する品性は理解できない。日本の政治が世界からさげすまれる。

維新の会の石原慎太郎共同代表は発言を支持し、党幹部は「個人的な発言」と不問に付した。政党としての良識を疑う。

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/editorial/465837.html>

慰めと安らぎ

(北海道新聞 2013.05.15 卓上四季)

<わたしが一番きれいだったとき／まわりの人達が沢山死んだ／工場で 海で 名もない島で／わたしはおしゃれのきっかけを落してしまっただ>

▼茨木のり子さん(1926～2006年)の「わたしが一番きれいだったとき」。戦時を生き延びた女性の心を歌う詩には、こんな光景も描かれている。<わたしが一番きれいだったとき／だれもやさしい贈物を捧げてはくれなかった／男たちは挙手の礼しか知らなくて／きれいな眼差だけを残し皆死んでいった>—

▼日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長は言った。「銃弾が雨嵐のごとく飛び交う中、精神的に高ぶっている猛者集団に慰安婦制度が必要なのは誰だって分かる」と。旧日本軍の当局者は、まさにそう考えたのだろう。だからアジア各地に「慰安所」ができた

▼「必要だ」と考えることと、それが「正しい」かは、まったく別だ。市長の言うように似た仕組みを持つ軍隊が他にあったとしても、「よそでもあった」が免罪符になるはずもない

▼旧軍が使った「慰安」という言葉は差別と欺瞞(ぎまん)でできている。慰安される側とさせられる側。ともに戦争遂行の「道具」にされた。そこに真の“慰めと安らぎ”などありえない

▼<一番きれい>でありうる時、女性に犠牲を強いる制度を「必要だった」と言ってはばからない人が、公党党首であり、首長をしている。異様に思う。

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/fourseasons/465839.html>

殺人狂時代

(岩手日報 2013.05.15 風土計)

「一人殺せば犯罪者だが、百万人を殺せば英雄だ。数が殺人を神聖化する」。チャプリンが、その代表作「殺人狂時代」で主人公に言わせた有名なせりふだ

▼殺人は日常の中の一握りの異常だが、戦争は「異常」が日常。われわれが知る「日常」が一握りとなる社会に、従軍慰安婦は存在した。戦争状態にあつて敵の人間を殺すのを殺人とは言わない。「異常が日常」の社会は狂気が支配する

▼日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長は「当時は軍の規律を維持するために(従軍慰安婦が必要だった)」と言った。「なぜ日本だけが取り上げられるのか」とも。さらに在日米軍幹部に「軍の

規律維持」のため風俗業の活用を求めた

▼「そうしないと、海兵隊の猛者の性的エネルギーをコントロールできない」という。在日米軍関連施設の約75%が集中する沖縄の人々は、どんな思いで聞いただろう。返還41年を迎えた今も「異常」が大手を振る現実を逆なでするに等しい

▼この種の話で「建前論だと人間社会は回らない」とは。それを政治家が口にするか。土地も水も食糧も、人類の歴史をさかのぼれば力による奪い合いだ。いまだ戦争という発想を克服できないからこそ政治があるだろう

▼もっとも今回、教えられたこともある。軍を持ち、規律維持を迫られる社会の一つのイメージだ。

<http://www.iwate-np.co.jp/fudokei/y2013/m05/fudo130515.htm>

言論の自由はありがたい

(東奥日報 2013.05.16 天地人)

言論の自由はありがたい。人の迷惑にならなければ、たいていのことは許される。だから、庶民は居酒屋で気ままにおだを上げていられる。ただ、発言が「酔っぱらいのたわごと」で済まされない政治家たちも庶民レベルでこの自由を満喫しているのは困ったものだ。

「(過去の植民地支配と侵略を認めた)村山富市首相談話をそのまま継承しているわけではない」「侵略という定義は学問的にも国際的にも定まっていない」。安倍晋三首相はのびのびと持論を披露してきた。

先の大戦などで中国や韓国に迷惑をかけていない、と言っているようにも聞こえるが、気にならないらしい。自民党の高市早苗政調会長に至っては、先の戦争を肯定しているのかと思うほどだ。「全く抵抗もせず日本が植民地となる道を選ぶのがベストだったのか」。

韓国や中国が反発するのも無理はない。米国までも不快感を示したとかで、安倍首相は村山談話継承路線に軌道修正し始めた。が、韓国は日本抜きで米国や中国と外交関係セミナーを開くらしい。日本の孤立化が心配だ。

日本維新の会共同代表・橋下徹大阪市長の発言も国内外から猛批判を浴びている。「従軍慰安婦は必要だった」「在日米軍は風俗業の利用を」。これでは居酒屋でも隣の席の女性から酒をぶっかけられるだろう。

<http://www.toonippo.co.jp/tenchijin/ten2013/ten20130516.html>

歴史認識／対立を鎮める冷静な対応を

(河北新報 2013.05.15 社説)

沖縄県の尖閣諸島、島根県の竹島の領有をめぐる、ぎくしゃくした状態の続く日本と中国、韓国との関係が再び波立っている。

中韓両国に加えて米国も強い関心を示している。これ以上、対立を激化させてはいけない。

発端となったのは、麻生太郎副総理兼財務相ら閣僚の靖国神社参拝と、安倍晋三首相の歴史認識に関する発言だ。

第2次世界大戦中の旧日本軍の行為について、首相は参院予算委で「侵略の定義は定まっていない」と答弁、「侵略」との明言を避けた。閣僚らの靖国参拝批判についても「どんな脅しにも屈しない」などと述べた。

案の定、中国、韓国が「侵略の否定」と強く反発。両国との修復機運に水を差す格好になった。中国はもとより、価値観を共有し緊密な関係にある韓国の反応をとりわけ深刻に受け止めるべきだろう。

米韓首脳会談で、韓国の朴槿恵大統領が日本の歴史認識に触れた。首脳会談で他国との関係に言及するのは異例だ。

麻生氏の靖国参拝は朴氏の大統領就任式で両氏が会談、関係改善の模索を始めて2ヵ月後。韓国側はメンツをつぶされたと受け止め、米国の理解を得ようとしたらしい。

朴氏は日本の前に中国を訪問する予定だという。北朝鮮の核問題をめぐる六カ国協議などでの「日本外し」に動く可能性を指摘する向きもある。

米議会調査局がまとめた報告書で「地域関係を壊し、米国の利益を損なう恐れがある」と分析するなど、日本の歴史認識に対する懸念が、日中、日韓の二国間を超えて米国にまで広がりだしている。放置するわけにはいかない。

懸念をよそに、首相に近い高市早苗自民党政調会長が植民地支配と侵略へのおわびを表明した村山富市首相談話に疑問を提起。さらに、旧日本軍による従軍慰安婦問題で日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が「必要だった」との認識を表明、火に油を注ぎかねない状況だ。

核・ミサイル開発を進める北朝鮮を、国際社会が協力して阻止しなければならない時に、領有権問題で冷え込んだ関係の改善を図らなければならない時に、なぜこうした発言が飛び出すのか。高支持率による「緩み」などがあるとすれば、心配だ。

株価の上昇など経済指標が上向いているが、日本経済が必ずしも成長軌道に乗ったわけではなく、

先行きは楽観できない。

経済力を高める中韓との安定した関係は、日本経済の持続的発展を支える。外交のつまずきで、政治の不安定要因を呼び込んではいならない。

歯切れのいい物言いは結構だが、デリケートなテーマに触れる際は関係国の反応を読み込む思慮深さを欠いてはいけない。

対立をエスカレートさせて双方、得るものはない。国際社会の見る目も変わって来よう。真の国益を見定め、一致できる分野での協力を通じて信頼関係の再構築を急ぐべきだ。

<http://www.kahoku.co.jp/shasetsu/2013/05/20130515s01.htm>

子どもに聞かせられない

(河北新報 2013.05.15 河北春秋)

この発言はとても子どもに聞かせられないと、親はテレビのスイッチを切ったのではないか

- ▼日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が、従軍慰安婦について「銃弾が飛び交う中で、精神的に高ぶっている猛者集団を休息させてあげようと思ったら、慰安婦制度は必要」と語った
- ▼今月初めには、沖縄の米軍幹部に「もっと風俗業を活用してほしい」と言って空気を凍り付け、会話を遮られた。旧日本軍も、在日米軍も一緒くたにする思考は、頭のどこをたたいたら出てくるのだろう
- ▼公の場で、政界第三極を率いる立場で、もっと言うと歴史認識をめぐる要人の発言が、お隣の国との溝を抜き差しならぬところまで深めている時だ。「今度のは致命的」のささやきが現実味を帯びている
- ▼本人のツイッターも感情に流されている。米国に当たり散らし放題だ。維新の会は、今年の総選挙で多くの国会議員を誕生させたものの、勢いが続かない。ぼやきたいのであれば、愚痴はどうぞ居酒屋で
- ▼終戦間もなく街には女性がああ角、この通りにも。生きるため身を落とす姿に「国を再び立て直さねばと思い、政治家を志した」と、いまは引退した議員が語っていた。人の尊厳の尊重が民主主義の礎と、誰か教える人はいないのか。

http://www.kahoku.co.jp/column/syunju/20130515_01.htm

いばらき春秋

(茨城新聞 2013.05.18 コラム)

「じえ」が流行語の兆しだそうだ。NHKの朝の連続テレビ小説「あまちゃん」で、驚きを表す岩手県北三陸地方の方言として紹介され、ファンの間を広まっているという

▼じえじえ、じえじえじえ…と数多く繰り返すほど驚きの度合いが大きいらしいが、日本維新の会共同代表を務める橋下徹大阪市長の発言は、どれぐらいの「じえ」だろうか

▼旧日本軍のいわゆる従軍慰安婦について「必要だった」と述べ、在日米軍には「風俗業の活用」を進言した。関係国から批判の声が上がり、米側も「侮辱だ」と強い不快感を示した

▼女性の人権を完全に無視し、倫理観のまったく欠落した発言はおよそ、政治家のものとは思えない。公人でなくとも、お天道様の下で口にするのがはばかれるような言葉だ

▼歯に衣着せぬ物言いが橋下氏のスタイルだが、本音がどこまでも通用するとは限らない。自由や平等や人権といった建前であらうじて成り立っているのが、国際社会というものなのだ

▼少し前には、イスラムへの偏見とも受け取れる発言で猪瀬直樹東京都知事が非難を浴びた。そろいもそろって、東西の大都市を預かる首長から失言が飛び出すとは。じえじえじえじえじえ…(勝)

<http://ibarakinews.jp/news/column.php?elem=syunju>

橋下市長発言 あまりにも非常識だ

(東京新聞 2013.05.16 社説)

日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が、旧日本軍の慰安婦は「必要だった」と述べたことは女性の人権を否定する暴言だ。政党代表としての認識欠如と責任を厳しく問わねばならない。

橋下氏は戦時中には軍の規律を維持し、兵士たちに休息を与える慰安婦制度は必要だったという見解を示した。こういう主張だ。

従軍慰安婦制度は各国にあったが、日本だけが非難される。慰安婦を集めるのに、日本が国家として暴行、脅迫して拉致したという証拠は見つかっていない。韓国などの宣伝により、欧米社会では「日本はレイプ国家」のように見られている。

戦時中ならどこでも起きたことだ、と抗弁するが、米国で奴隷制度を当時の基準なら正しかったと言うのと同じではないか。国連の諸会議では女性に対する性暴力の根絶を目指す動きが活発で、国際社会から強い反発を招くだろう。

話はさらに脱線した。沖縄で米軍司令官と会い、「海兵隊の性欲をコントロールするために、風俗業を活用した方がよい」とまで発言した。

太平洋戦争末期、沖縄には日本兵のための慰安所が置かれ、日本人や朝鮮人女性が集められた。沖縄は戦後も朝鮮戦争、ベトナム戦争の出撃基地になった。今も米兵による性被害は続く。

橋下氏の発言は過去の戦争を反省して平和を構築する、被害者の苦しみを受け止め語り継ぐという普遍的な価値観に完全に逆行するものだ。沖縄が置かれた現実は無神経であり、軍隊の暴力性にも関心がないようにみえる。

日本政府は1993年、当時の河野洋平官房長官の談話で、従軍慰安婦問題への旧日本軍の関与を認めて、謝罪し反省を表明した。慰安所は中国から東南アジアまで広範囲に存在し、旧軍が管理や慰安婦らの移送に関与したことは国内外の証言で確認されている。

日本は民間募金と政府も出資した「アジア女性基金」をつくり、元慰安婦への謝罪と償いに取り組んだ。韓国とはまだ議論が続いているという事実を、国際社会に対し地道に説明する必要があるだろう。

政府、自民党からは橋下発言への批判が相次いだ。党内では慰安婦制度への旧軍の関与を否定する声がある。韓国、中国との関係修復のためにも、安倍晋三首相は閣僚や党幹部に対し、歴史認識も含めて慎重な発言を徹底させるべきだ。

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/column/editorial/CK2013051602000167.html>

橋下発言

(神奈川新聞 2013.05.16 社説)

戦争を免罪符にするな

法廷で強姦（ごうかん）罪に問われた被告が言う。「レイプ事件はどの国でも起きている」「性的衝動を抑えるためにやった」。こうした弁明は、犯した罪に向き合おうとせず、正当化するものとして、判決では厳しく指弾されよう。弁護士ならずとも分かることだ。

日本維新の会共同代表、橋下徹氏が言っていることは、これと同様だ。

戦時中の旧日本軍の従軍慰安婦制度について、「必要なのは誰でも分かる」「当時は世界各国が制度を持っていた」と語った。

歴史認識の問題以前に性暴力の肯定につながる、人権意識を著しく欠いた発言だ。本音を語ったつもりだろうが、そうした本音を持つ人物が政治家を務めている異常さに気付いていないという意

味で二重に戦慄（せんりつ）する。

橋下氏は強制的に慰安婦にさせられた証拠はないと主張し続けてきた。今回の発言でも「日本が不当に侮辱を受けている」と強調している。

だが、慰安婦問題の本質は強制性の有無にあるのではない。

慰安婦の女性たちは、決して「慰安」をしたわけではなかった。性暴力を受けたのだ。

列をなす兵隊たちの相手をさせられる。体と心に深い傷を刻み付けられる行為は暴力以外の何ものでもない。欧米で「セックス・スレイブ（性奴隷）」と呼称されるゆえんだ。

それはまた、女性の尊厳を踏みにじる側に回った兵隊にとっても、自らの尊厳を傷つける行為に他ならなかった。そうした認識がないからこそ、軍隊が持つ非人間性を否定するのではなく、沖縄の米軍司令官に「風俗業の活用」を進言するという愚挙もなせるのだろう。

橋下氏は「戦争の悲劇の結果なので、慰安婦になってしまった方には優しい配慮が必要だ」とも語った。

だが、被害者が求めているのは、哀れみや同情ではない。つらい過去を語り続ける元慰安婦がいるのはなぜか。忘れてほしくない、仕方がなかったと片付けてほしくないからだ。忘却と免罪が意味するのは、続く苦しみを生きる、その人そのものの否定だ。個人の尊厳はここでも踏みつけにされようとしている。

戦争だから仕方がない。平和主義を頂く日本国憲法の改正が政治の場で語られるいま、その発想が行き着く先を考えたい。

<http://news.kanaloco.jp/editorial/article/1305160001/>

橋下氏発言 批判に耳傾けて謝罪せよ

（新潟日報 2013.05.15 社説）

信じられないような発言である。人権に対してどういう感覚を持っているのか、全く理解できない。

日本維新の会共同代表で大阪市長でもある橋下徹氏が、旧日本軍の従軍慰安婦について「必要だった」と公の場で述べたのだ。

持論を展開した橋下氏は「銃弾が飛び交う中、精神的に高ぶっている猛者集団に（慰安婦が）必要なのは誰だって分かる」と強調した。これには驚くほかない。

国内外に大きな波紋を広げたはずだ。閣僚や与野党幹部からも批判が相次いでいる。

橋下氏は公党のトップで、政令指定都市の首長でもある。個人的見解だとことわって済む話ではない。

慰安婦の女性は言語に尽くしがたい苦痛を強いられたのである。発言は、極限状態で戦う兵士が欲望を発散させる対象なのだから、慰安婦を認めるべきという内容だ。

女性を軽視するものだと、各地で怒りの声が渦巻いている。また、家族と別れて戦地に赴いた男性をも卑下しているとの批判も出よう。

韓国や中国と日本との関係は、閣僚の靖国神社参拝、安倍晋三首相の歴史認識などをめぐって冷え込んでいる時期だ。米国も安倍首相に懸念を示している。

今回の発言はタイミングが悪すぎるし、今後の外交にも支障をきたすのではないか。

橋下氏は、従軍慰安婦の問題で強制性と旧日本軍の関与を認めた 1993 年の河野洋平官房長官談話を強く非難していた。

一方で第 1 次安倍政権が 2007 年に「強制連行の証拠はない」と閣議決定したことは評価している。

国家観や歴史観で首相と距離が近いことを示し、他党との差別化を図ろうとの意図があるのだろうか。

たとえ国際社会の反発を招いても、踏み込んだ主張が党勢にプラスに働くと考えているのだとしたら、その政治勘には疑問符が付く。

さらに看過できないのは、橋下氏の沖縄での発言である。大型連休に沖縄を訪問した際、米軍の司令官に風俗業をもっと活用するように進言したのだという。

「海兵隊の猛者」の性的エネルギーをコントロールするためだとの理屈だ。論外である。

司令官は苦笑いをしながら「米軍では禁止だ」と答えたのだが、橋下氏は「建前論だと人間社会は回らない」と反論した。

沖縄の米軍はこれまでの不祥事の反省から、規律の強化に取り組んでいる時である。

橋下氏の「提案」は、米国防総省の政策や米国の法律に逆行するとの見解が在日米軍から示された。当たり前のことだ。

維新の石原慎太郎共同代表は、橋下氏の慰安婦容認は擁護していたが、党については「衆院選の時のような昇り竜の勢いとは言えない」と危機感を表している。

橋下氏は強がってばかりいないで、ダメージの大きさを真摯（しんし）に反省してはどうか。内外の批判に耳を澄ませて、発言を謝罪するのが賢明だ。

<http://www.niigata-nippo.co.jp/opinion/editorial/20130515042827.html>

橋下氏の発言 女性の尊厳踏みしじる

（信濃毎日 2013.05.15 社説）

日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が従軍慰安婦を認める発言を繰り返し、波紋を広げている。

戦争で女性が兵士に利用されるのは仕方ない、と言っているようなものである。個人的な見解であったとしても女性の人権や尊厳を踏みしじる言葉で、容認できない。

過去の歴史をめぐって中国や韓国と緊張が高まる中、事態をより悪化させることにもなりかねない。政治家として軽率に過ぎ、資質が厳しく問われよう。

この発言は13日、大阪市役所で記者団とのやりとりで出た。「猛者集団に休息を与えようとする」と慰安婦制度が必要なのは誰だって分かる」「軍を維持し、規律を保つために、当時は必要だった」などと語った。一方、戦争の結果なので慰安婦になった女性には配慮が要るとも述べている。

翌日も「人間、特に男に、性的な欲求を解消する策が必要なことは厳然たる事実」とし、慰安婦制度そのものを是認するような発言を続けた。

橋下氏は従軍慰安婦問題について、かねて旧日本軍が強制した証拠はないと主張していた。今回の発言はさらに踏み込んだ。このほか、在日米軍の幹部に、米兵による風俗業者の利用を促したことも明らかにしている。

橋下氏の発言に、韓国政府関係者は「歴史認識と女性の人権尊重意識の深刻な欠如を露呈した」と批判し、在日米軍の高官は「われわれが米兵に徹底させようとしている価値観と相いれない」と苦言を呈した。安倍晋三内閣の閣僚や与野党幹部、国内の市民団体などからも批判が続出した。

安倍政権からも歴史認識をめぐって危うい発言が続く。安倍首相は過去の侵略と植民地支配を謝罪した村山談話を「そのまま継承しているわけではない」と国会で答弁。中韓は反発し、米国からは懸念の声が出ている。

結局、菅義偉官房長官が歴代内閣同様に引き継ぐと明言し、軌道修正を図った。その直後には自

民党の高市早苗政調会長が再び、安倍政権の歴史認識は歴代とは異なるとの認識を示し、党は火消しに追われている。

橋下氏の発言で、歴史認識問題が終盤国会における論戦の焦点になる可能性が出てきた。慰安婦問題への対応では、日本政府は国連など国際社会からも厳しくみられていることを忘れてはならない。政治家が国際的な人権感覚や常識を疑われるようでは、国の先行きはおぼつかない。

<http://www.shinmai.co.jp/news/20130515/KT130514ETI090007000.php>

人権問題の深奥

(伊勢新聞 2013.05.15 大観小観)

- ▼弁護士が捜査の違法性を指摘して証拠能力を否定し、依頼人である被告の無罪判決を勝ち取る。検察が控訴を諦めて無罪が確定した後、被告が「これで二度と罪に問われることはないのですね」と言って、にやりと笑う。そんな場面はサスペンスの中だけか
- ▼従軍慰安婦問題で暴行、脅迫、拉致に国が関与した「証拠はないと閣議決定している」と橋下徹大阪市長。「疑わしきは罰せず」は裁判の原則。証拠がなければ事実もないことに何の疑いも持たないようなのは、弁護士としての職業観か
- ▼「銃弾が飛び交う中、精神的に高ぶっている猛者が集う軍の規律維持」には必要な仕組でもあったとし、不祥事続きの沖縄の米軍海兵隊に風俗産業を勧めたそうか
- ▼「政治生命を懸ける」「命懸けで戦う（頑張る）」などの言葉は今日、いささか食傷気味ではあるが、銃弾をくぐるにも似た精神の高まりを自分なりに追体験している人は案外多いかもしれない。風俗産業のお得意様ということか
- ▼県人権施策審議会の一員として各人権関係団体代表らとともに人権施策基本方針づくりに携わったことがある。ある団体が切望する施策に別の団体が冷ややかなケースがあったが、帰り道での雑談で「パイは限られている。あれが実現されると、こちらの予算が削られる」
- ▼被害者となった部落差別問題では加害者の出版社の社長ら責任者の退陣を見てもなおその後の監視を怠らぬ人権意識の高い橋下市長だが、それ以外の人権、例えば女性のそれには鈍感で、加害者になることもあるなどは珍しくない。人権問題の深奥もそこにある。

「軍と売春は付きもの」

(伊勢新聞 2013.05.16 大観小観)

- ▼日本維新の会の石原慎太郎共同代表が「軍と売春は付きもの」と橋下徹大阪市長の従軍慰安婦発

言を擁護した。日本軍をおとしめる認識を戦争を知らない橋下市長と共有していることに驚く

- ▼国民を守るということで絶対的存在だった関東軍が、旧ソ連侵攻で民間人を放置し真っ先に逃げたという話に真実味が増す。売春組織に支えられた軍隊ならさもありなん。戦犯とは別の意味で、靖国神社の英霊を点検したくならないか
- ▼旧満州で旧ソ連軍につかまったという老人の話聞いたことがある。特飲街の女性が“犠牲”になり、一般女性の貞操が守られたと感謝していた。その時周囲がどんな期待をし、どんな目をしたか。そんなことは触れずに“犠牲的行動”で“貴重な貞操”が守られたと老人は繰り返していた
- ▼軍隊が死地から解放され勝利を確信した途端凶暴になるのは確かだが、沖縄海兵隊の不祥事は「性的エネルギー」が原因という橋下市長の認識とは違う気がする。占領下の日本でも「性の防波堤」を建前に売春施設が作られたが、民家に押し入るなど、進駐軍の暴挙は相次いだ。GHQの圧力で「大きな男が」としか書けなかったと新聞記者が証言している
- ▼米軍海兵隊の傍若無人には不心得な個人がいたというだけでなく、地位協定を背景に根強い勝者の差別意識がある。そんな思いが沖縄県民の怒りを増幅しているのに違いない。県税事務所の男性主幹がセクハラで停職処分を受けた
- ▼キスを迫り体を触った。相手は部下の女性非常勤職員で「嫌がっていると思わなかった」。そんな心境に似ていよう。

<http://www.isenp.co.jp/taikan/taikans.htm>

「政治家の発言が荒っぽい」

(紀伊民報 2013.05.16 コラム)

政治家の言葉が荒っぽい。それなりの立場にありながら、独善的で品位のない発言を重ねている。

- ▼日本維新の会共同代表、橋下徹大阪市長が旧日本軍の慰安婦について「慰安婦制度が必要なのは誰だって分かる」と発言した。米軍普天間飛行場を訪問した際には、司令官に「もっと風俗業を活用してほしい」と進言したという。女性を蔑視し、米兵の尊厳に泥を塗る乱暴な言葉である。
- ▼それを擁護する維新の会のもう一人の共同代表、石原慎太郎氏の言葉も荒っぽい。「軍と売春ってのはつきもので、歴史の中の原理みたいなもの。(売春は) お金をもうけるために一番安易な手段として昔からあった。好ましいものではないが、基本的に橋下氏はそんなに間違ったことを言っていない」。
- ▼ともに、事実の断片を都合のよいように解釈し発言しているだけで、その発言が国益をどれだけ

損ねているかには思いが至らない。人をどれだけ傷つけているのかも想像できない。政治家というより人間としてのデリカシーがない。友達にはなりたくない人たちである。

▼お二人とも一度、発言で傷つけられる側に身を置いて考えられたらどうだろう。市井に身を置けば、自分がいかに独善的な考えをしていたか、分かるのではないか。

▼老子に「知るものは言わず、言う者は知らず」という言葉がある。歴史的事実に正面から切り結ばず、身勝手な放言をする政治家ほど国益を損なうものはない。(石)

<http://www.agara.co.jp/modules/colum/article.php?storyid=252619>

橋下市長「慰安婦」発言 正当化してどうなるのか

(福井新聞 2013.05.15 論説)

安倍政権が誕生して以来、過去の歴史認識に対する見直し発言が相次ぎ、国内外から右傾化を懸念する声が高まっている。この機に乗じたか、日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が、旧日本軍の従軍慰安婦に関し「軍の規律を維持するために必要だった」と容認する発言をした。こうした発言がさらに国際問題化し、日本批判が高まる現実をどう認識するのか。

橋下氏はこれまでも過激な発言を繰り返し、既成政党との違いを鮮明にしながら、維新の会を地方政党から衆院第3党の地位まで拡大させた。それは既成概念や古びた常識に対する挑戦でもあった。その延長線上に従軍慰安婦発言があるのだろうか。そうであるならば、記者の質問や個人のツイッターではなく、堂々しかるべき公の場で発言すべきではないか。

「あれだけ銃弾が飛び交う中、精神的に高ぶっている猛者集団には必要なのは誰だって分かる」とし、「世界各国が持っていた。なぜ日本だけが取り上げられるのか」とも述べた。

それだけではない。先日、沖縄の米軍普天間飛行場を視察した際には、幹部に対して海兵隊員に風俗業者を活用させるよう求めたことも明らかにした。こうした一連の発言は、単に「率直な話」というだけでなく「確信犯」であり、反響の大きさを十分意識しての言動だろう。

たとえ、戦時下の修羅場に必要存在だったとしても、現代に正当化することは許されない。沖縄では少女暴行事件などが多発し、米軍への不信感が根強い。それなら風俗の女性を活用すればいい、という発想があるとすれば、女性を性行為の対象としかとらえない男性の差別意識であり、人権侵害である。

「建前論では人間社会は回らない」とする橋下氏。ならば、欲望むき出しの本音の社会は平和で心豊かなのか。慰安婦を生んだ忌まわしい歴史、戦争責任と向き合い、それを乗り越えていく責務が政治家にはある。

もう一方の共同代表、石原慎太郎氏も「軍と売春は付きものだ」と擁護する。維新の会は昨年の衆院選以降、急激に失速している。参院選に向け発信力ある橋下氏のスタンブレイにも見える。陰る人気を反応のいいツイッターでカバーしようとするなら、浅薄で悲しい戦略だ。

海外だけでなく、安倍政権内からも批判が出ている。その政権だが、安倍首相は「侵略戦争」に対して「侵略の定義は国際的にも定まっていない」と述べ、米国内からも懸念の声が上がると軌道修正し、沈静化を図った。だが先日、自民党の高市早苗政調会長は植民地支配と侵略を認めた1995年の村山富市首相談話に関して「違和感がある」と述べた。政権の歴史認識は、本音のところでは何も変わっていない。

こうした発言が国益につながるとは思えない。4月に英国で開かれた主要国（G8）外相会合は「紛争下での性暴力防止」が主テーマだったはずだ。「個人の発言だ」と火消しに躍起となる政府や維新の会幹部の姿に、政治の劣化が止まらない現状が透けて見える。

<http://www.fukuishimbun.co.jp/localnews/editorial/42499.html>

橋下市長発言 許し難い女性への暴言

[京都新聞 2013.05.16 社説]

女性の尊厳を踏みにじる発言であり、許し難い。日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が「慰安婦制度が必要なのは、誰でも分かる」と発言し、批判が殺到している。

続けて、沖縄で在日米軍海兵隊幹部に対し、「もっと風俗業を活用してほしい」と促したことを自ら明かした。

男性の性的欲求のはけ口として女性という道具が必要だと語っているに等しい。恥ずべき発言だ。

これは遠い昔の事実認識の問題ではなく、倫理の問題だ。問われているのは人権感覚である。政治家が軍に性的サービスをあっせんする必要はない。

「世界各国の軍隊が同じようなことをやっていた」という言い方は慰安婦問題の解決にも免責にもならないばかりか、従軍慰安婦だった人をさらに傷付ける。国際社会には「奴隷制度は当時必要で、さまざまな国に奴隷はいた」と語るのと、同じ論理に映るだろう。

慰安婦問題を、沖縄が耐えてきた米軍基地問題と風俗につなげたところに、橋下氏の女性観が露呈している。風俗産業で働く女性が「みな自由意思だ。積極活用すればよい」という発言は、男性に都合のよい論理だ。

現在の風俗産業はグレーゾーンに置かれている。借金でやむなく働く女性やパスポートを取り上げられ働く外国人女性など、抑圧され、痛ましい事例は枚挙にいとまない。風俗産業で働く女性の

人権擁護も法的に位置づけられていない。カネさえ介在すれば自由意思だとは言えない。

「軍と売春は付きもの」と、石原慎太郎・日本維新の会共同代表は橋下氏をかばった。

安倍晋三首相は、橋下氏の発言について「自民党の立場とは全く違う」と批判し、従軍慰安婦問題で旧日本軍の強制性を認めた 1993 年の河野洋平官房長官談話についても、「引き継ぐ」と明言した。首相が歴代内閣の歴史認識を再確認し、沈静化に努めるのは当然のことだ。

だが、そもそも安倍氏の歴史認識を巡る一連の国会答弁や、身内の高市早苗自民党政調会長が村山談話に違和感を示したことも重なり、近隣国の猛反発を招いている。真摯（しんし）に反省すべきは橋下氏ばかりではない。橋下氏の発言は野党政治家の個人的なものとしてではなく、海外からは「日本の政治家」の人権感覚と品位の劣化だと受け止められかねない。

女性の尊厳を踏みにじる橋下発言は決して日本国民の共通認識ではない。そのことを政府は海外に強く訴えていくべきだ。

http://www.kyoto-np.co.jp/info/syasetu/20130516_3.html

橋下氏の発言

（京都新聞 2013.05.15 凡語）

人間、あまりのことにすぐさま反応できないことがある。13 日の橋下徹大阪市長の発言がそうだった。従軍慰安婦について「軍の規律を維持するために必要だった」と肯定し、米軍司令官に対し風俗業の活用を勧めたというのだからあきれる

- ▼戦争遂行の道具に使うことは人間としての女性を否定する。それは男性を駒としか見ていないことの表れでもある。だが、きのうも「必要なことは厳然たる事実」と繰り返した
- ▼日本維新の会ツートップの相方、石原慎太郎氏も「軍と売春は付きもの」とさらりと言う。だが、こういう言葉は女性の芯を疼（うず）かせる。だからこそ性差を超えて社会で共通の認識を持つと努めてきた年月ではなかったか
- ▼なのに、橋下氏お得意の「ちゃぶ台返し」である。真意を探るのも腹立たしいが、これだけは分かった。歯切れ良さとは大衆を引きつける一方で何かを切り捨てる、それは往々にして弱者である。この党の持つ危うさだ
- ▼米兵による性暴力に苦しめられてきた沖縄からは怒りの声上がる。折しもきょう本土復帰から 41 年。「復帰とは何だったのか」という問いは、「日本にとって沖縄とは何なのか」というわれわれへの逆照射に他ならない

▼橋下氏の発言に「本土」がどう向き合っていくのか。沖縄の人々は見ている。

http://www.kyoto-np.co.jp/info/bongo/20130515_4.html

「侵略」定義、歴史認識、そして今度は従軍慰安婦

(奈良新聞 2013.05.15 国原譜)

憲法改正をめぐる論議が少しずつ核心へと近づいていくように見える。戦争での「侵略」定義、歴史認識、そして今度は従軍慰安婦。

憲法改正の国会発議要件にかかる 96 条論議が大切なのはもちろんだが、やはり本筋は 9 条改正。いよいよ、私たちが太平洋戦争に関してどれほどの共通認識を持っているかが問われる。

14 日付本紙に、日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長の発言が載っている。戦時中の従軍慰安婦に触れ、「あれだけ銃弾が飛び交う中…」と述べたという。

戦後生まれの橋下氏は何を指してこう言うのだろうか。こちらも戦後生まれだが、どうやら戦争・戦闘に対する想像力の違いがあるようだ。多分、橋下氏のは空想である。

昭和 22 年に発表された田村泰次郎の小説「春婦伝」が貴重な示唆を与えてくれていると思うがどうだろう。戦争と従軍慰安婦について、この作品にリアリティーを感じる。

歴史認識を問うなら明治期にさかのぼるべき。五條市出身の政治家、樽井藤吉が明治 18 年に書いたという「大東合邦論」は、日韓両国の対等合併を説く素朴なアジア主義だった。

<http://www.nara-np.co.jp/20130515091238.html>

橋下氏発言／個人の見解では済まない

(神戸新聞 2013.05.15 社説)

日本維新の会共同代表で大阪市長の橋下徹氏から、聞くに堪えない発言が飛び出した。

橋下氏は 13 日の記者団とのやりとりで、旧日本軍の従軍慰安婦問題について「当時は軍の規律を維持するために慰安婦制度は必要だった」と容認する考えを表明した。

関連して、沖縄県の米軍普天間飛行場を視察した際、在日米軍幹部に「もっと風俗業を活用してほしい。そうしないと海兵隊の猛者の性的エネルギーをコントロールできない」と伝えて拒否されたことも自ら明らかにした。

橋下氏は慰安婦問題をめぐり、これまでも強制連行を否定する立場を主張していた。だが今回の発言で問題なのは、戦争遂行のためには女性の人権を踏みにじる行為も認められるという考え方であり、基地問題に苦しむ沖縄で米兵の性的処理までも地元で背負わせるかのような発想である。

慰安婦の強制連行があったかなかったかをめぐる論争とは次元が異なる。国政政党のリーダーであり、大都市の長として、基本的な人権感覚の欠如が疑われる発言というほかない。

韓国政府が反発を強めるのは当然だ。在日米軍側も「相いれない価値観」などと不快感を示している。与野党も一斉に批判し、維新の会は「個人的な発言」と火消しに努めている。

こうした反応に、橋下氏はきのうも慰安婦制度について「当時は世界各国の軍が活用していた」などと反論した。対アジア外交で強硬姿勢を期待する一部支持層に向けたアピールだとすれば、国際社会での影響の大きさを見誤っている。

従軍慰安婦問題は、1993年に当時の河野洋平官房長官が軍の関与を認める談話を発表した後もデリケートな外交問題であり続けている。河野談話は国内外の調整を積み重ねてたどり着いた一定の到達点として尊重すべきだ。一政治家の不用意な発言で無に帰す事態は避けなければならない。

ただでさえ、安倍晋三首相や自民党の高市早苗政調会長らの「侵略」をめぐる発言などで、東アジアや米国から安倍政権の歴史認識への危惧が広がっている。その上、有力野党の党首が人権軽視の発言を繰り返すようでは、日本は国際社会の価値観を共有できない国、とレッテルを貼られてしまう恐れさえある。

国際社会からの孤立を望む国民はいない。国益を考える政治家ならば、速やかに発言を撤回すべきだ。

<http://www.kobe-np.co.jp/column/shasetsu/201305/0005989604.shtml>

橋下市長発言／人権への認識を求めたい

(山陰中央新報 2013.05.15 論説)

日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が、旧日本軍時代の従軍慰安婦について「当時は軍の規律を維持するために必要だった」と容認する考えを表明。先日沖縄を視察した際には、駐留する米軍の幹部に対して海兵隊員に風俗業者を活用させるよう求めたことを記者団に明らかにした。

大都市の市長という公職にあり、衆院では第3党の地位を占める政党の共同代表の発言である。これが日本を代表し国民の大きな期待を集める政治家の歴史認識なのか。本人は極めて「率直」に語ったつもりなのかかもしれないが、慎重さが足りないのではないか。

従軍慰安婦については、第2次大戦中、命懸けで戦闘に臨む兵士には心休まる時間が必要だった。

それが「慰安婦」だったという論理を展開した。維新の会のもう一人の共同代表、石原慎太郎氏も「軍と売春は付きものだ」と発言している。

もう一つは、現在の在日米軍についての言及だ。祖国を離れて軍務に就く若者には、息抜きの場が必要だろう。それならば「風俗業」の女性を活用すればいい。そうすればかつての少女暴行事件のような一般人への被害が少なくなるという発想が橋下氏にはあるのかもしれない。その後「建前論では人間社会は回らない」とも橋下氏は強調したという。

しかしその根底には女性を軽視し、男性の欲望をさまざまな理由のある女性に押しつけ、従属関係を認める考えがあるのではないか。「世界各国が慰安婦制度を持っていた」という橋下氏の言葉は事実だろう。だが歴史への反省から人間は前に進むのではないか。そして女性の人権が政治の焦点になった事実を直視するべきだ。

それには、慰安婦を生んだ戦争時代への反省が必要だ。さらに、米軍が沖縄に存在する事態を少しでも解消しようという働き掛けもいる。現状を少しでもよく変えようという政治家の信念が欠けている。

安倍内閣からも批判的な声が相次ぐ。「慰安婦制度は女性の人権に対する大変な侵害」（稲田朋美行政改革担当相）、「今の時点で慰安婦の必要性を強調する必要があるのか、大変疑問だ」（谷垣禎一法相）。当然の言葉だろう。

日本は第2次大戦をどう総括したのか。他国へ軍隊を送り込むことは「侵略」以外の何ものでもない。それを安倍晋三首相は「学問的にさまざまな定義があり、絶対的な定義は定まっていない」と述べている。自民党の高市早苗政調会長も過去の植民地支配と侵略を認めた1995年の村山富市首相談話に対して「違和感がある」とした。

こうした発言が現状で国益につながるとは思えない。従軍慰安婦に関しては、日本政府は93年、宮沢内閣時代に河野洋平官房長官談話を発表、95年には「女性のためのアジア平和国民基金」を設置した。

戦争責任に向き合おうとする努力は続けられてきた。国連でも度々取り上げられ、今年4月に英国で開かれた主要国（G8）外相会合の主要議題は「紛争下での性暴力防止」だった。今でも戦時下の女性の人権は大きな国際的なテーマだ。橋下氏らには世界の現状を認識してもらいたい。

<http://www.sanin-chuo.co.jp/column/modules/news/article.php?storyid=538879033>

四季風

（山口新聞 2013.05.18 コラム）

「恥」という字は、耳と心を組み合わせた会意文字だ。漢和辞典によれば、心にやましいことがあ

ると耳が赤くなり、恥じらいが耳に現れることからできたという

▼この世に生を受けて六十有余年。フーテンの寅さんではないが、恥多き人生を歩んできた。今思うと後ろめたさで耳が赤くなることばかり。これは身から出たさびで仕方ないが、他人の言動で恥ずかしい思いをしたのは今度が初めてだった

▼それは日本維新の会の共同代表である橋下徹・大阪市長による旧日本軍の従軍慰安婦を容認する発言。詳しい内容や反応はすでに報道されているので省くが、何と貧弱な発想をしている人かと驚きを禁じ得なかった

▼この報道に接したとき最初に思い浮かんだのが「里」という字を使った一つの慣用句。あまりほめられた言葉ではないので書く気はないが、慣用句と同時に頭をよぎったのは「彼は幼少期から現在までどのような過程で人格が形成されたのか」という疑問

▼普段は身近な話題を取り上げることが多い小欄だが、たまには広い世界に目を転じることもある。大きな選挙を前に公党を誹謗する気はさらさらでないが、一連の発言でこの党のありようがだいぶ分かった。(和)

<http://www.minato-yamaguchi.co.jp/yama/shikifu.html>

政治家が国益を忘れては困る。大局観を見失っては困る

(徳島新聞 2013.05.15 鳴潮)

太平洋戦争中、日本と米国が激しい攻防を繰り広げたサイパン島のサンゴ礁に、ぼつんと米軍の中型戦車を取り残されていた。刺されると痛いゴンズイの群れに閉口しながら車体に素足をかけた

長い時を経ても朽ち果てない鋼鉄の塊である。ブリキのような装甲の日本軍の戦車はひとたまりもなかっただろう。島内の戦跡では大破した軽戦車を見た

仕掛けた瞬間、敗北が運命付けられていた戦争だった。技術力、工業力、資源・・・、どれをとっても彼我の差は大きかった。それでも戦争を選択した、あるいは選ばされたのは、何よりも政治力が劣っていたからといえるかもしれない。手ひどい敗北という結果だけを見ても国策を誤ったといえる

敗戦から何を学ぶのか。端的に言えばなぜ負けたのか、どうしたら勝てるのか、である。日本が戦争を仕掛けることは、もはやあり得ない。しかし戦争の教訓はさまざまな場面で応用が可能だろう

政治は現実問題を解決する手段である。戦後、昨日まで「鬼畜」とののしっていた相手と手を結んで繁栄の道を開いたのも、保守本流、リアリストのなせる技と言っている

政治家の言葉が軽くなって久しい。できもしない公約を語り、歴史認識で物議を醸す。ナイーブな発言が問題になったのは「慰安婦」の橋下徹大阪市長一人ではない。政治家が国益を忘れては困る。大局観を見失っては困る。

<http://www.topics.or.jp/meityo/news/2013/05/13685754914486.html>

【慰安婦発言】人権感覚が問われている

(高知新聞 2013.05.15 社説)

旧日本軍の従軍慰安婦問題について「当時は軍の規律を維持するために必要だった」とする橋下徹日本維新の会共同代表（大阪市長）の発言が波紋を広げている。

13日に続いて昨日も必要性に言及しているから、発言は失言の部類ではない。橋下氏の言うように軍隊と性の関係は旧日本軍だけの問題ではないが、今問われているのは過去の事実に向き合うかということだ。

人権に対する配慮、感覚はこれでいいのか。橋下発言は、歴史認識の在り方にも一石を投じている。本音で政治を語ることを身上とする橋下代表は、旧日本軍の従軍慰安婦問題に対する他国の見方には同意できない点があったようだ。13日には従軍慰安婦のような制度は「世界各国が持っていた。なぜ日本だけが取り上げられるのか」と反発している。

歴史的に見て、兵士の性問題に頭を悩ませる軍隊組織が多かったのは確かであろう。橋下発言はこの点を強調しているが、違和感を覚えるのはそれが従軍慰安婦の必要性とストレートにつながっていることだ。

その認識は過去の事例にとどまらない。先日、視察で訪問した沖縄でも在日米軍幹部に対し海兵隊での風俗業者の活用を求めている。

もっとも橋下氏は「慰安婦は戦争の悲劇の結果だ。心情を理解し、優しく配慮することが必要だ」とも述べている。こんな人権感覚と必要論との間には埋め難い溝が存在する。

橋下氏は野党の共同代表の一人で市政トップという立場だが、慰安婦必要論への再三の言及は、個人的見解では済まない要素をはらんでいる。国際社会の動きとの関係である。

従軍慰安婦問題は「解決済み」というのが日本政府の基本方針だ。しかし元慰安婦が声を上げ始めた1990年代以降、問題はより複雑化し、国際社会の関心は広がっている。

国連人権委員会は96年、「日本政府は法的責任を認め、性奴隷にされた被害者に補償金を払うべきだ」との報告をまとめた。これを端緒に欧州議会や欧米諸国では日本政府に公式謝罪を求める決

議が相次いでいる。橋下氏はこうした動きにも反発しているかもしれないが、それは問題の本質ではない。過去の事実、現在の状況を見るのに、普遍の人権感覚があるかどうかが問われているのだ。

<http://www.kochinews.co.jp/?&nwSr1=302441&nwIW=1&nwVt=knd>

コラム・言の刃

(愛媛新聞 2013.05.16 地軸)

「言葉」は「言の端」だった。「言(こと)」は「事」で、事実とほぼ同義の重い意味。軽い意味合いを持たせるために「端」を加え、やがて豊かさを表す「葉」を用いた「言葉」が定着したという(語源由来辞典) ▲

とすれば「言の葉」とは本来、豊かで見ずみずしく、心明るくするものに違いない。しかし近ごろは、空疎な「言端」のみならず、荒々しく人を傷つける「言の刃」も漏れ聞こえてくる▲

日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が物議を醸している。慰安婦が「(旧日本軍の) 猛者集団に必要なのは誰だって分かる」。沖縄在日米軍には「もっと風俗業を活用するよう求めた」…。持論、と呼ぶにはあまりに乱暴、無神経で品がない▲

政治家が公の場で言葉を発した以上、「個人の意見」では済まされない。橋下氏が他者の痛みを顧みず、「言刃」を振りかざし続けるなら、政治家の資質、品格も問われる▲

沖縄県の女性団体は「女性のみならず、すべての人間の尊厳を傷つける」と抗議した。その通り、男性も、米軍も、日本の政治家全体も、そして自分自身も。多言を費やし釈明するより、沈思黙考して気づくこともあるはず▲

「言」は、刑の墨を入れる「辛(はり)」と、神への文書を収めた器「口(サイ)」から成り、誓いを翻せば罰を受けるという意味。一言とは、かくも重い。その重さと大切さを、あらためてかみしめる。

<http://www.ehime-np.co.jp/rensai/chijiku/ren018201305168688.html>

橋下市長発言

(宮崎日日新聞 2013.05.15 社説)

歴史認識、人権意識を疑う

日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が、旧日本軍時代の従軍慰安婦について「軍の規律を維持するために必要だった」と認めた。沖縄を先日視察した際には、米軍の幹部に対して海兵隊員に

風俗業者を活用させるよう求めたことも明らかにした。

これが衆院で第3党の地位を占める政党の共同代表の発言である。こんな歴史認識、人権意識を持っていることにあきれてしまう。情けない限りだ。

石原共同代表は擁護

第2次大戦中、命を懸けて戦う兵士には休息が必要で、それが「慰安婦」だったという。維新の会のもう一人の共同代表、石原慎太郎氏も「軍と売春は付きものだ」と擁護した。

在日米軍については、「風俗業」の女性を活用すれば、少女暴行事件のような一般人への被害が少なくなるという発想が橋下氏にはあるのかもしれない。「建前論では人間社会は回らない」とも橋下氏は強調したという。

しかしその根底にあるのは女性を性行為、欲望を解消する対象としかとらえない人間性だ。男性の欲望を肯定し、さまざまな理由のある女性に押しつけ、従属関係を認める。「世界各国が慰安婦制度を持っていた」という橋下氏の言葉は事実だろう。だが歴史を反省しながら人間は前に進むのではないか。そして女性の人権が政治の焦点になった。

なぜ慰安婦を生んだ戦争時代への反省がないのか。なぜ米軍が沖縄に存在する事態を少しでも解消しようという方向に働き掛けないのか。現状を少しでも変えようという政治家の信念がみられないのは残念だ。

安倍内閣からも批判

韓国などから反発の声が上がり、歴史認識では疑問がある安倍内閣からも批判が相次いでいる。「慰安婦制度は女性の人権に対する大変な侵害」（稲田朋美行政改革担当相）、「今の時点で慰安婦の必要性を強調する必要があるのか、大変疑問だ」（谷垣禎一法相）。当然の言葉である。

日本は第2次大戦をどう総括したのか。他国へ軍隊を送り込むことは「侵略」である。それを安倍晋三首相は「学問的にさまざまな定義があり、絶対的な定義は定まっていない」と述べている。高市早苗政調会長も、過去の植民地支配と侵略を認めた1995年の村山富市首相談話に対して「違和感がある」とした。

こうした発言が国益につながるのだろうか。従軍慰安婦に関しては、日本政府は93年、宮沢内閣時代に河野洋平官房長官談話を発表、日本軍が慰安所の設置に直接・間接に関与したことを認めた。95年には「女性のためのアジア平和国民基金」を設置。戦争責任に向き合おうとする努力は続けられてきた。今でも戦時下の女性の人権は大きな国際的テーマだ。橋下氏らは世界を見詰める必要がある。

<http://www.the-miyanichi.co.jp/contents/index.php?itemid=53531&catid=15>

橋下氏発言 国際社会の信頼を損なう

(西日本新聞 2013.05.16 社説)

日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が、旧日本軍の従軍慰安婦を必要だったとする発言をした。国内だけでなく国際社会からも批判が相次いでいる。

橋下氏の最初の発言はこうだ。

「あれだけ銃弾が飛び交う中、精神的に高ぶっている猛者集団に休息を与えようとする、慰安婦制度が必要なのは誰だって分かる」「軍を維持し、規律を保つために、当時は必要だった」

さらに橋下氏は、沖縄で米軍の司令官と面会した際に「もっと風俗業を活用してほしい」「そうしないと海兵隊の猛者の性的エネルギーをコントロールできない」などと伝えたという。主要政党の代表としては、実に思慮に欠ける発言と言わざるを得ない。

橋下氏は批判を受け「(制度を)容認はしていない」「当時はみんなそう思っていた、と伝えただけだ」と釈明したが、なぜ最初から正確に言わないのか。

従軍慰安婦とは、日本兵の性的暴行や性病の流行を防ぐため、主に旧日本軍が業者に要請し売春のための慰安所を設置した制度だ。慰安婦には日本人のほか朝鮮人や中国人などが雇われたため、戦後処理に関わる課題となっている。

1993年の河野洋平官房長官談話では、慰安婦の募集や移送などに軍による強制性があったことを認めたが、一方で2007年の第1次安倍晋三内閣が「強制連行を直接示す資料は見当たらない」と閣議決定しており、国や軍の強制の有無をめぐる論議が続いている。

橋下氏の発言は、こうした強制に関する論争を飛び越え、慰安婦制度そのものを「必要だった」としたところが突出している。「当時は」の前提付きとはいえ、軍の維持のために女性の性的犠牲が必要だとする論理は、女性の尊厳を深く傷つけるもので、断じて容認できない。

また、米軍司令官に「風俗業の活用を」と勧めたことにも驚かされる。在日米軍の高官は「われわれが米兵に徹底させようとしている価値観と相いれない」と語ったが、当然の反応だろう。

確かに、歴史上の事実について現在の価値観からは是非の判断を下すのは難しい側面がある。しかし、米国のまともな政治家が「黒人奴隷制度は、当時としては必要だった」などと公言するだろうか。

国際社会は、紛争や内乱が絶えない現実には足を取られつつ、それでも倫理的成熟を目指してきた。昨日までの価値観では「必要悪」と容認していた制度や習慣を一つずつ捨て、良心に照らして少し

でも善き社会へと向かう努力を重ねる国や政治家こそが、世界の尊敬を得る。橋下氏は、こうした国際社会の大きな意思を、よく理解していないのではないか。

橋下氏は「日本だけがなぜ批判を受けているのか」と不満を語っている。発言には日本の名誉を回復させたいとの意図があったかもしれない。しかし結果的に、日本の政治に対する国際社会の信頼を損なってしまった。極めて残念である。

<http://www.nishinippon.co.jp/nnp/item/363958>

橋下発言 政治家としての見識疑う

(熊本日日 2013.05.15 社説)

これが政治家の発言なのか。見識を疑わざるを得ない。

日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が、旧日本軍の従軍慰安婦問題について「当時は軍の規律を維持するために必要だった」と、容認する考えを表明したことだ。

批判は閣僚や与野党幹部をはじめ国内外に広がっている。「女性の人権に対する重大な侵害」との認識が弁護士である橋下氏にないはずはあるまい。なぜ今、そのような発言をするのか理解できない。外交上、国益を損なうことにもなりかねない。橋下氏は批判を受けても、ツイッターで反論している。過去の歴史を直視して発言を撤回すべきだ。

橋下氏は大型連休中に沖縄県の米軍普天間飛行場を視察した際、在日米軍幹部に海兵隊員の風俗業者活用を求めたことも明らかにした。米軍幹部もあきれたに違いない。この発言は、沖縄で米兵による性犯罪が後を絶たないことを念頭に置いたとみられるが、沖縄の現実から目を背けたものだ。

日本維新の会は昨年の衆院選で躍進し、第三極争いで優位に立ったものの、このところ人気に陰りが見える。一連の橋下発言が、夏の参院選への危機感から党としての独自性を打ち出すことにあるとしたら、認識や手法が誤っている。

第2次世界大戦に関する歴史認識をめぐる、安倍晋三首相が「侵略の定義は定まっていない」と発言。歴史認識に対し、米議会から懸念が示された。自民党の高市早苗政調会長が、過去の植民地支配と侵略を認めた村山富市首相談話（1995年）に違和感を表明したことには、党内からも批判が出ている。

こうした安倍首相や高市氏の発言に続く橋下発言が、外交に及ぼす影響は小さくはないだろう。冷え込んでいる日韓、日中関係は改善の糸口が見えない。先ごろ訪米した韓国の朴槿恵[パククネ]大統領は、オバマ米大統領が北朝鮮対応での日米韓3カ国協力を訴えたのに対し、日本への言及を避けた。訪日より先に中国訪問を決め、日本とどう向き合うか連携を探る動きさえある。

日本の政治家には、東アジア安定のため日韓、日中関係を本気で改善しようという気があるのだろうか。大局観が欠けているとしか言いようのない振る舞いだ。

<http://kumanichi.com/syasetu/kiji/20130515002.shtml>

橋下氏発言、8言語に翻訳

(長崎新聞 2013.05.17 暮らし・話題)

「アホな話と思わへん？」

ちょっと聞いてや、どない思う？ 日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長による、女性の人権をめぐる一連の発言について「海外でどう受け止めるか」と考えた大阪のおばちゃんらが、発言を8言語に翻訳し、インターネットの交流サイトで公開した。

サイトには、橋下氏の発言に驚いた海外からとみられる書き込みが、相次いでいる。翻訳文を公開したのはフェイスブックを通じて活動している女性市民団体「全日本おばちゃん党」。地方議員や研究者も含め、世界中のおばちゃん約2,800人が参加している。

<http://www.nagasaki-np.co.jp/f24/C020130517/li2013051701001520.shtml>

【橋下氏発言】 深刻な人権意識の欠如

(南日本新聞 2013.05.16 社説)

日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が、旧日本軍時代の従軍慰安婦について「当時は軍の規律を維持するために必要だった」と容認する考えを表明した。

さらに大型連休初めに沖縄を視察した際、在日米軍幹部に海兵隊の性的エネルギーをコントロールするため「風俗業を活用してほしい」と話したことも明らかにした。

これが日本を代表する大都市の市長で、衆院第3党を率いる政治家の言うことだろうか。女性の尊厳を傷つけ、人権意識に欠けた発言は撤回すべきだ。

橋下氏は「銃弾が飛び交う中、精神的に高ぶっている猛者集団に休息を与えようとする」と、慰安婦制度が必要なのは誰だって分かる」と述べた。維新の石原慎太郎共同代表も「軍と売春は付きものだ」と橋下氏を擁護した。

とても「誰だって分かる」理屈とはいえない。橋下氏と面会した在日米軍幹部が「われわれの価値観と相いれない」と戸惑ったというのは無理もない。

慰安婦容認の根底にあるのは、女性を性行為や欲望解消の対象としかとらえない考え方だろう。

在日米軍幹部への発言にも、祖国を離れて軍務に就く若者の息抜きに風俗業の女性を活用すればいい、という発想があるかもしれない。

橋下氏は「世界各国が慰安婦制度を持っていた」とも述べ、日本だけが非難されるのはおかしいと主張する。従軍慰安婦の強制性を認めた1993年の河野洋平官房長官談話にも否定的だ。

慰安婦問題は2国間問題と捉えられがちだが、国連でたびたび取り上げられたほか、2007年には米下院が日本に謝罪を求める決議を採択した。

今年4月、ロンドンで開かれた主要国(G8)外相会合でも主要議題は「紛争下での性暴力防止」だった。今でも戦時下の女性の人権は大きなテーマである。橋下氏らは世界を知るべきだ。

橋下氏発言を受け、韓国など国内外から批判が高まっている。安倍晋三首相は「私、安倍内閣、自民党の立場とは全く違う」と述べ、問題の早期收拾を図る考えだ。

ただ、安倍首相が「侵略の定義は国際的にも定まっていない」と述べて歴史認識問題が再燃した。自民党の高市早苗政調会長も、日本の植民地支配と侵略を認めた村山富市首相談話を「違和感がある」と発言し、非難を招いた。

北朝鮮への対応で日米韓が連携を強めなければならない時期に、韓国は日本抜きで外交を鮮明にしつつある。政治家の不用意な発言が、国益を損ねかねないことを肝に銘じる必要がある。

http://373news.com/_column/syasetu.php?ym=201305&storyid=48478

橋下氏発言 速やかな撤回、謝罪を

(琉球新報 2013.05.16 社説)

人権感覚を著しく欠いた問題発言なのに、本人はほとんど考えを改めるつもりはないようだ。

日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が旧日本軍の従軍慰安婦について「必要なのは誰だって分かる」と発言。米軍普天間基地司令官に「風俗業を活用してほしい」と提案したことも明らかにした。

女性を「モノ」として扱うような発言だ。戦時中に慰安婦として尊厳を奪われた人たちを再び傷つけている。激しい批判が寄せられているのは当然だろう。政党、自治体のトップが性暴力を容認するような発言をすることは到底理解できない。

慰安婦問題で橋下氏は戦時中の旧日本軍の関与や強制性を認めた1993年の「河野談話」を批判してきた。だがそもそも米国などの国際世論は性暴力には非常に厳しく、強制性があるうとなかろうと、慰安婦の歴史そのものを非難していることを指摘しておきたい。

発言について橋下氏は問題提起の意図があったと説明したが、結果的に日本に対する評価を大きくおとしめた。海外の厳しい反応の背景には、就任前まで河野談話の修正を主張してきた安倍晋三首相らに対する厳しい視線もある。

橋下氏は普天間の司令官に「海兵隊の猛者の性的エネルギーをきちんとコントロールできない」などと述べたという。米兵の綱紀粛正策や駐留自体を抜本的に見直すことなく、性犯罪抑止を性的サービスに求める発想は不見識極まりない。復帰41年の今日まで続く沖縄戦後史を振り返れば、「売春が存在しても米兵の性暴力は繰り返された。風俗業がなかったからではない」（基地・軍隊を許さない行動する女たちの会の高里鈴代氏）ことが分かる。この重い事実を直視したい。

橋下氏は15日、「(慰安婦を)容認はしていない」などと釈明する一方、「(旧日本軍の慰安婦を)正当化するつもりはないが、当時は世界各国がやっていた」と重ねて持論を展開した。性風俗活用の提案も繰り返したが、その発言には「性犯罪に遭いたくないなら現代版の慰安婦を用意しろということ」（作家で元外務省主任分析官の佐藤優氏）といった、沖縄への構造的な差別意識が潜んでいまいか。

橋下氏は発言を直ちに撤回し、謝罪すべきだ。多くの怒りを買って、中韓両国はじめ国際的な不信を増幅させるのは愚かなことだ。

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-206621-storytopic-11.html>

【橋下氏発言】人権感覚に重大な疑問

(沖縄タイムス 2013.05.16 社説)

およそ公人が公の場で発言する内容ではない。論外だ。女性に対する人権感覚を著しく欠いており、公党の共同代表としても公職の市長としても、失格である。

旧日本軍の慰安婦問題をめぐり、日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長は13日「当時は軍の規律を維持するために必要だった」と発言した。

橋下氏は「あれだけ銃弾が飛び交う中、精神的に高ぶっている猛者集団に休息を与えようとする、慰安婦制度が必要なのは誰だって分かる」と制度そのものを肯定した。政府は1993年の河野洋平官房長官談話で慰安婦問題で旧日本軍の関与と強制性を認めている。

橋下氏は「暴行、脅迫をして拉致した事実は裏付けられていない」と語った。強制を裏付ける日本政府・軍の公文書は現時点では見つかっていないかもしれないが、だからといって強制がなかったとは言いきれない。公文書を焼却処分した可能性も捨てきれない。慰安所で不特定多数の日本兵を相手にさせられたことがそもそも強制であり、その種の証言は多くある。

慰安婦制度は女性の人権をじゅうりんし、人間としての尊厳を奪うものである、との認識が国際社会の常識だ。

韓国の朴槿恵（パクケネ）大統領は米議会で「歴史に正しい認識をもたなければ明日はない」と演説した。日本を念頭に置いたものだ。橋下氏の発言は韓国の国民感情を逆なでし、「反省しない日本」のイメージを再び世界に広げてしまった。近隣外交がとげとげしくなっている折、外交感覚を疑う。



橋下氏は 13 日午後に再度、記者団に囲まれ、今月初めに米軍普天間飛行場の司令官と会った際、『もっと風俗業を活用してほしい』と言った』ことを明らかにした。「そうしないと海兵隊の猛者の性的エネルギーをコントロールできない」と伝えたという。

司令官は凍り付き「米軍では禁止されている」と、この話を打ち切ったという。米軍が引いてしまうような「助言」しかできないとは本当に恥ずかしい限りだ。

今に連なる沖縄の基地問題の原点は 95 年の暴行事件である。その後も米兵による性暴力はなくなる。橋下氏が知らないはずがない。

県内 25 の女性団体は 15 日、「女性のみならず、すべての人間の尊厳を傷つけるものだ」と、発言の撤回と謝罪を求める抗議声明を発表した。

橋下氏は全国で怒りを表明する女性らを前に同じようなことが言えるのかどうか。女性の人権に対する想像力が決定的に欠けているのだ。



国内外からの反響の大きさに橋下氏は 15 日、記者団に「(慰安婦を) 容認していない」と釈明。「こちらの発したことが正確に伝わっていない」と報道を批判した。

橋下氏とともに日本維新の会を率いる石原慎太郎共同代表は「軍と売春は付きもので、橋下氏は基本的に間違ったことは言っていない」と擁護している。いったい、この党はどのような党なのだろうか。慰安婦は米国では「性奴隷」と訳される。2 人の主張は国際社会では通用しない。

http://www.okinawatimes.co.jp/article/2013-05-16_49285/

「悪いことばかりではなく、良いおもいもしたと思う」

(沖縄タイムス 2013.05.16 大弦小弦)

「悪いことばかりではなく、良いおもいもしたと思う」。2 年ほど前、県内の離島で従軍慰安婦に

ついて学び、当時を知る島人から証言を聞いた後の女子学生の感想だ。

- ▼幼かった島人が、談笑する「慰安婦」の姿を見たと話したことから、そう思ったらしい。この問題に関心を寄せる学生が、苛酷（かこく）な性暴力を受け続けた女性たちの深層に目を向けるよりも表層を語ったことを、深刻に受け止めた
- ▼日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が旧日本軍の従軍慰安婦を容認。在沖米軍司令官には「性的エネルギー」の解消に「風俗業の活用」を進言して凍り付かせた
- ▼当然ながら国内外で批判にさらされ、15日には釈明に迫われた。挑発的な言動や物議を醸す政策で注目を集めてきた橋下氏は、持論にすぎないのに「本音」と言えば、一定の有権者の心をつかめると勘違いしたのだろうか
- ▼慰安婦問題について、建前だの本音だのという余地はまったくない。日本は河野談話で「おわびと反省」を表明し、軍の関与を認めている。韓国や中国にとどまらず国際社会も暴言を許さないだろう
- ▼なのに一部の政治家によってこうした発言は繰り返され、ここまで深刻な状況に陥った。国内でこれを許してきた土壌と決別しなければならない。これ以上の繰り返しは許されない。

http://www.okinawatimes.co.jp/article/2013-05-16_49287/

橋下氏「慰安婦」発言 公人として人間として落第だ

（しんぶん赤旗 2013.05.15 主張）

本来なら15日は沖縄の日本復帰から41年にあたり、4月に安倍晋三政権が政府主催の「主権回復」式典を強行したことから欠かせないテーマですが、きょうはそれに先立って、「日本維新の会」代表でもある橋下徹大阪市長の一連の発言を取り上げなければなりません。アジア・太平洋戦争中の日本軍「慰安婦」問題に関連して、慰安婦制度が「軍隊にとって必要だった」と積極的に弁護し、あまつさえ、性犯罪が絶えない沖縄の米軍にたいし「もっと風俗業の活用を」などと求めたのです。市長など公人としてだけでなく人間として落第だと断罪するものです。

女性を人間扱いしない

橋下氏はこれまでも日本軍「慰安婦」問題について、「強制連行のような事実はなかった」との発言を重ねて批判を受けてきましたが、軍隊に「慰安婦は必要だった」などと公言するのは、これまでほとんど聞いたことがないようなとんでもない暴言です。橋下氏は、「命をかけてたたかう勇者連中に、どこかで休息をさせてあげよう」などといいますが、戦争遂行のために女性の性を利用するのは当たり前などというのは、女性を性の対象にするだけで人間として扱わないとんでもないものです。

橋下氏は「日本だけでなくいろんな国で慰安婦制度を活用してきた」といいますが、それこそ他国の例をあげれば自らの責任は免れると考えるさもしい考えです。いわば犯罪をとがめられた人物が、あいつもやっているからと開き直るようなもので、人間の社会で通用するものではありません。

日本がアジア・太平洋戦争のさなかに、植民地とした朝鮮半島や軍事占領した中国や東南アジアから女性を連行し、日本軍が管理する慰安所で日本兵による強姦（ごうかん）や売春を強制したというのは、「慰安婦」とされた女性たちの数多くの証言が示すように動かしがたい事実です。政府は1993年の河野洋平官房長官の「談話」で政府の責任を認めました。しかし公的な謝罪や賠償は行っていません。

しかもその後も安倍晋三氏ら自民党内の侵略戦争を肯定する「靖国」派や橋下氏らが「強制連行はなかった」などの発言を重ねてきました。これに対し、韓国や中国はもちろんアメリカやEU（欧州連合）などの政府や議会、国民から抗議の声があとを絶たないことから、この問題の歴史的、国際的な重大性は明らかです。

ことは日本の戦争責任と、女性の人権にかかわる問題です。「慰安婦制度が必要だった」などというのは論外ですが、「強制性があったかなかったか」と問題をわい小化するのも日本軍「慰安婦」問題を根本から反省しないからです。いったい「強制」がなければ「慰安婦」制度は許されたのか。強制性の否定から制度そのものの肯定に行き着いた橋下氏の発言は、その本質をあぶり出しています。

「風俗活用」発言も同根

日本軍「慰安婦」制度の肯定に行き着いた橋下氏が、米軍の性犯罪をとがめるのではなく「風俗業」の活用を勧めたのもまさに同根です。橋下氏には女性の人権を尊重する発想がまったくありません。

安倍氏や橋下氏のように日本の戦争責任を反省せず人権感覚を欠くのでは、国際的に孤立するだけです。橋下氏の発言の責任を、あいまいにすますことはできません。

http://www.jcp.or.jp/akahata/aik13/2013-05-15/2013051502_02_1.html

金学順さん

（しんぶん赤旗 2013.05.15 潮流）

金学順（キム・ハクスン）さんが日本の軍人に無理やり連れ去られたのは17歳のときでした。姉とともにトラックに乗せられ、空き家で服を引き裂かれ、犯されました。殴られ、蹴られ、殺すぞと脅されながら。それから毎日、軍人の相手をさせられました

- ▼金さんが勇気をふるい、日本軍の「慰安婦」だったことを証言して以来、同じ被害にあった女性たちが次々に声をあげます。だまされ、暴力によって拉致され、地獄の日々を強いられる。ほとんどが未成年でした
- ▼日本軍が組織的につくった慰安婦制度。その狂気を維新の会の橋下徹代表が「必要だった」と肯定しました。もともと他人の痛みや人権感覚に乏しい人物だと思っただけでしたが、ここまでとは
- ▼耳をふさぎたくなる発言はその後もつづきます。沖縄の米軍司令官に会ったときに「もっと風俗業を活用してほしい」と進言したことも明らかに。ツイッターでも「男に性的な欲求を解消する策が必要なことは厳然たる事実」と女性をおとしめる持論を展開しています
- ▼「ほんとうに人間の血が流れているのか」（市田共産党書記局長）。人間の尊厳をうばわれた彼女たちに少しでも寄り添えば、口が裂けてもいえない言葉を平然と口にしますので
- ▼慰安婦問題では安倍首相や閣僚からも歴史に反した言動が相次いでいます。程度のちがいはあっても、戦争責任への無反省さが土壌にあります。「私を 17 歳に戻して」。いまは亡き金さんらの心の叫びを聞けない国になっては、世界から孤立するだけです。

http://www.jcp.or.jp/akahata/aik13/2013-05-15/2013051501_04_0.html